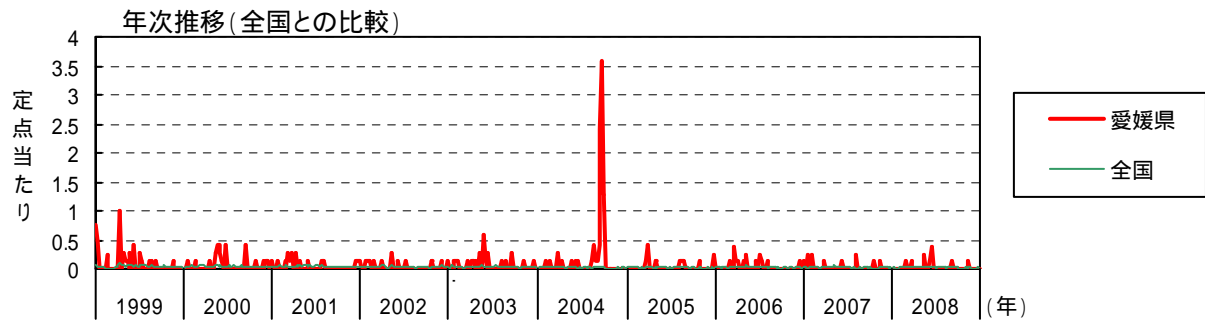
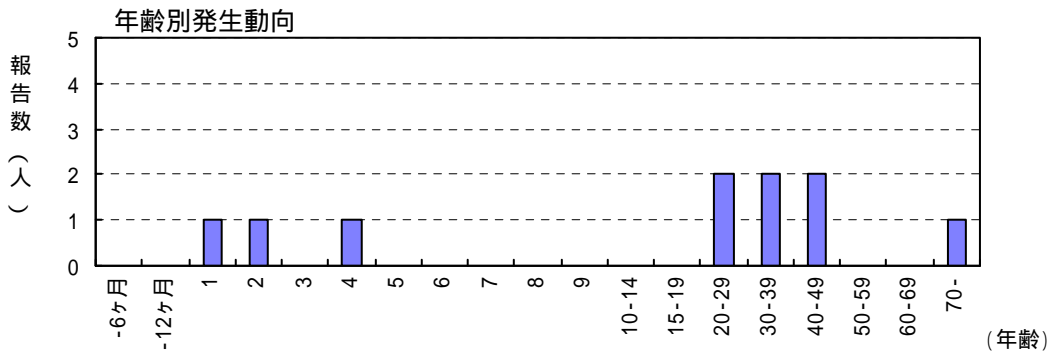
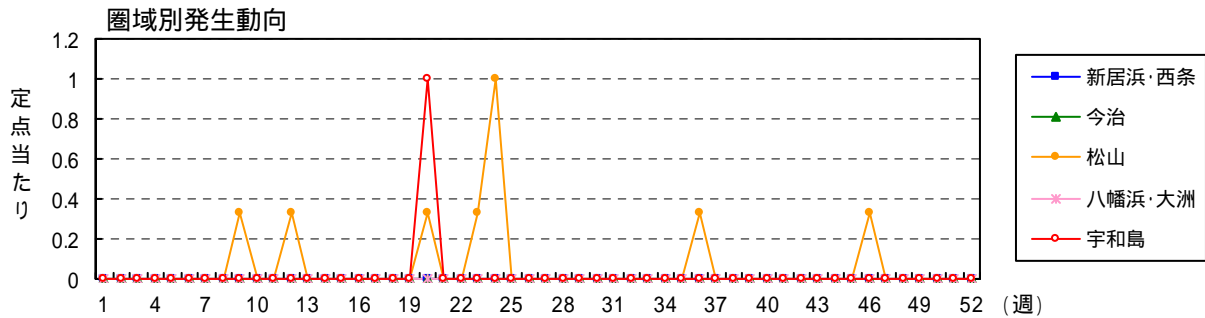
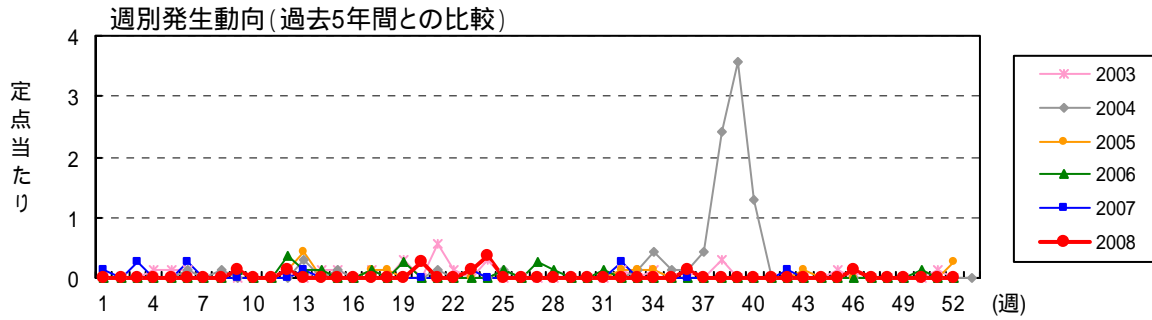


(4) 眼科定点対象疾患(週報)

急性出血性結膜炎

2008年の患者報告数は10人(定点当たり1.25人/年)で、前年(患者報告数11人 定点当たり1.38人/年)に引き続き小規模な発生であった。本疾患は2004年9月~10月にかけて、宇和島地区で地域的な短期流行があって以降、散発の状態が続いている。地域別では松山市7人、松山地区2人、宇和島地区1人であった。年齢別では10歳未満3人、20歳代、30歳代、40歳代が各2人、70歳以上が1人であった。



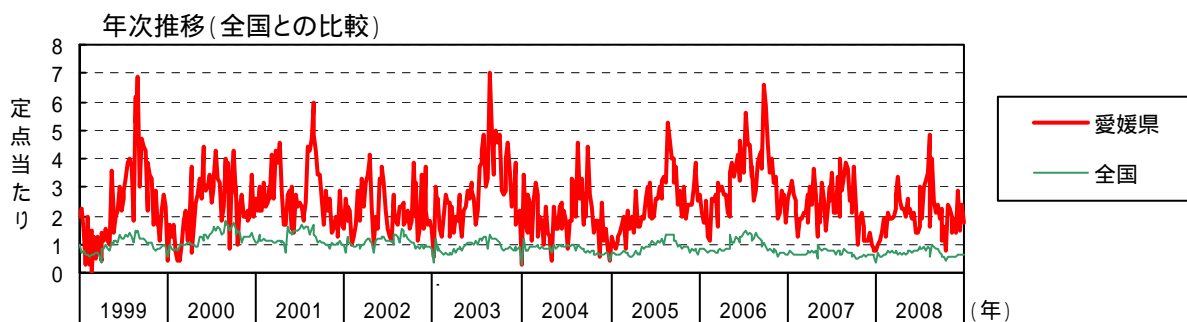
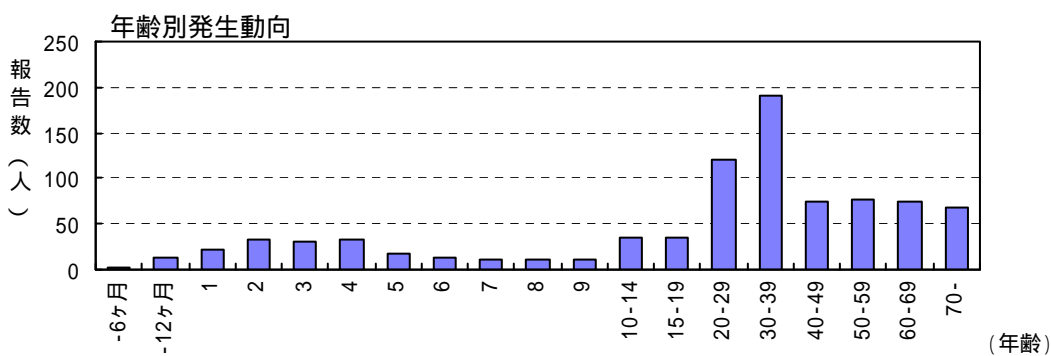
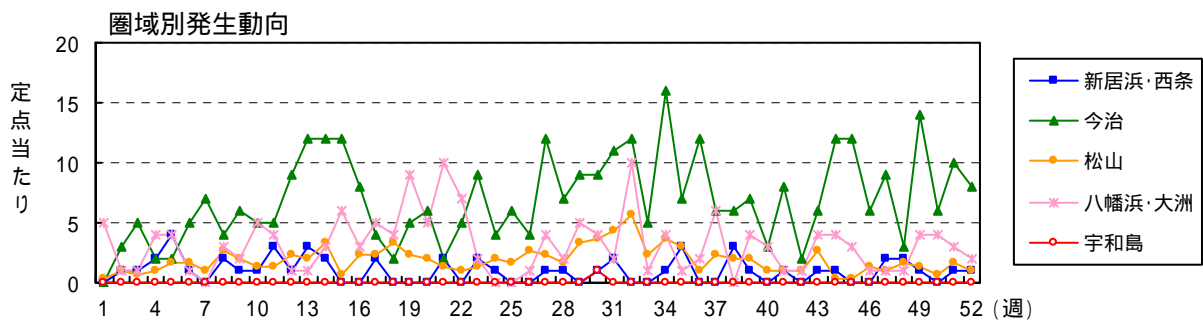
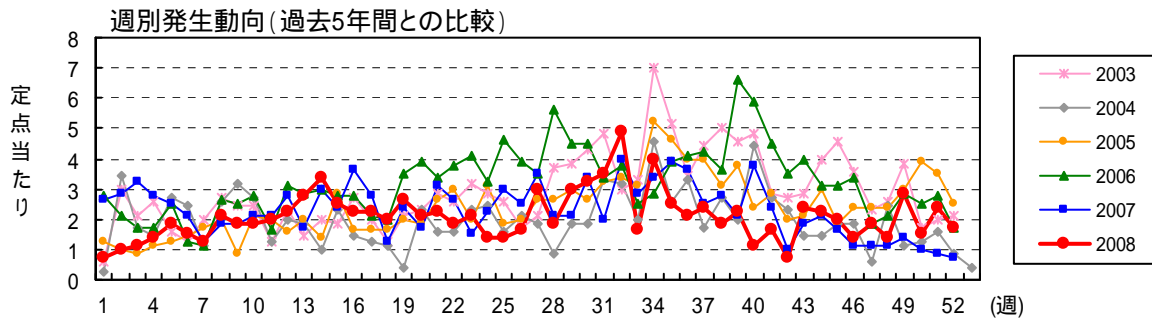
急性出血性結膜炎

月	週	患者報告数											定点当たり報告数														
		2008年 保健所別						愛媛県			全 国			2008年 保健所別						愛媛県			全 国				
		西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2008	2007	2006	2008	2007	2006	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島	2008	2007	2006	2008	2007	2006		
1	1							1		7	15	13											0.13		0.01	0.02	0.02
	2									17	16	16												0.03	0.03	0.02	
	3							2		10	11	13											0.25	0.02	0.02	0.02	
	4									10	16	10												0.01	0.03	0.02	
	5									15	18	16												0.02	0.03	0.02	
	6							2		20	16	18											0.25	0.03	0.03	0.03	
	7									19	14	13												0.03	0.02	0.02	
	8									23	11	11												0.03	0.02	0.02	
	9			1			1	1		16	17	13			0.33				0.13		0.13		0.02	0.03	0.02	0.02	
	10									27	12	14												0.04	0.02	0.02	
	11									28	22	19												0.04	0.03	0.03	
	12				1		1	3		22	13	19				1.00			0.13		0.38		0.03	0.02	0.03	0.03	
	13							1		23	28	21								0.13	0.13	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	
	14									19	20	26											0.13	0.03	0.03	0.04	
	15									31	22	15												0.05	0.03	0.02	
	16									22	16	15												0.03	0.02	0.02	
	17								1	19	19	17									0.13		0.03	0.03	0.03	0.03	
	18									15	13	16												0.02	0.02	0.03	
	19									17	37	25												0.03	0.06	0.04	
	20			1			1	2		13	25	26			0.33			1.00	0.25		0.25		0.02	0.04	0.04	0.04	
	21									24	16	12												0.04	0.02	0.02	
	22									14	21	19												0.02	0.03	0.03	
	23			1			1	1		17	21	19			0.33				0.13	0.13			0.03	0.03	0.03	0.03	
	24			3				3		16	16	25			1.00				0.38				0.02	0.02	0.04	0.04	
	25								1	16	18	28									0.13		0.02	0.03	0.04	0.04	
	26									18	24	16											0.03	0.04	0.03	0.03	
	27								2	11	19	20											0.25	0.02	0.03	0.03	
	28									13	16	21											0.13	0.02	0.02	0.03	
	29									12	8	12												0.02	0.01	0.02	
	30									16	12	19												0.02	0.02	0.03	
	31								1	14	6	16									0.13		0.02	0.01	0.03	0.03	
	32								2	18	16	9											0.25		0.03	0.03	0.01
	33									10	3	22												0.02	0.00	0.04	
	34									20	23	18												0.03	0.03	0.03	
	35									24	10	13												0.04	0.01	0.02	
	36				1		1			16	19	14				1.00			0.13				0.02	0.03	0.02	0.02	
	37									21	22	8											0.03	0.03	0.01	0.01	
	38									15	16	13											0.02	0.02	0.02	0.02	
	39									12	5	10											0.02	0.01	0.02	0.02	
	40									7	15	4												0.01	0.02	0.01	
	41									11	7	11												0.02	0.01	0.02	
	42								1	7	7	13								0.13			0.01	0.01	0.02	0.02	
	43									11	10	7												0.02	0.01	0.01	
	44									18	10	15												0.03	0.01	0.02	
	45									11	14	19												0.02	0.02	0.03	
	46			1			1	1		20	13	14			0.33				0.13	0.13			0.03	0.02	0.02	0.02	
	47									14	14	7												0.02	0.02	0.01	
	48									8	16	17												0.01	0.02	0.03	
	49									8	19	20												0.01	0.03	0.03	
	50									11	19	22											0.13	0.02	0.03	0.03	
	51									18	11	19												0.03	0.02	0.03	
	52									11	17	5												0.02	0.03	0.01	
	合計			7	2		1	10	11	15	835	824	823			2.33	2.00		1.00	1.25	1.38	1.88	1.25	1.25	1.30	1.30	

注1)2008年の全国患者報告数及び定点当たり報告数は、各週の還元データを転記したものであり、確定値とは異なる。

流行性角結膜炎

2008年の患者報告数は872人(定点当たり109.00人/年)で、前年(患者報告数963人 定点当たり120.38人/年)に比べ減少したが、過去10年間と比較すると平均的な発生規模であった。例年8~9月に患者数の増加が見られるが、本年は今治地区の多発が年間を通じて起こり、他地区は散發程度の発生に留まったため、動向に大きな変動はなかった。地域別では、今治地区(定点当たり362.00人/年)が突出して多く、次いで八幡浜地区(定点当たり164.00人/年)、松山市(定点当たり85.33人/年)が多かった。年齢別では乳児から高齢者まで幅広い年齢層にわたっているが、20歳代以上が606人と全体の69.5%を占めており、小児に比べ成人に多く発生している。また、全国(定点当たり36.06人/年)と比較すると県内の患者報告数は3倍程度多く発生しており、この傾向は過去10年間をみても変わっていない。

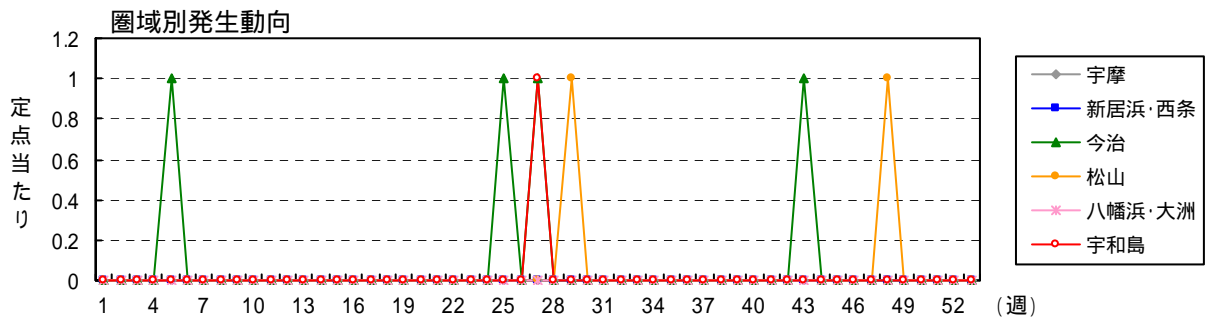
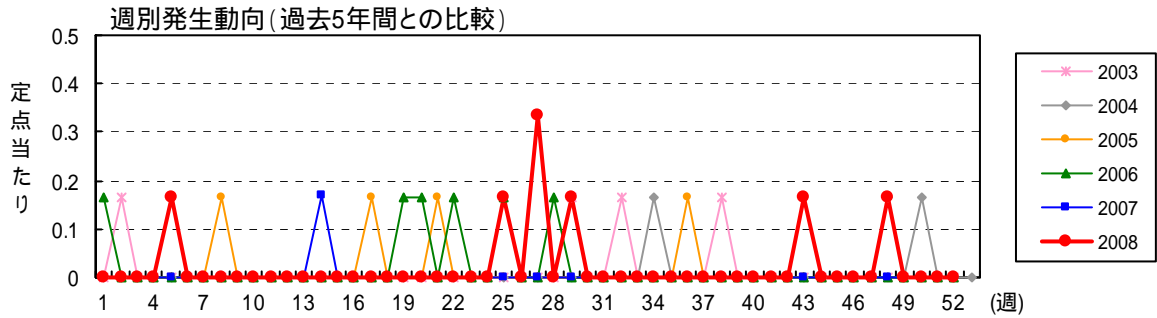




(5) 基幹定点対象疾患(週報)

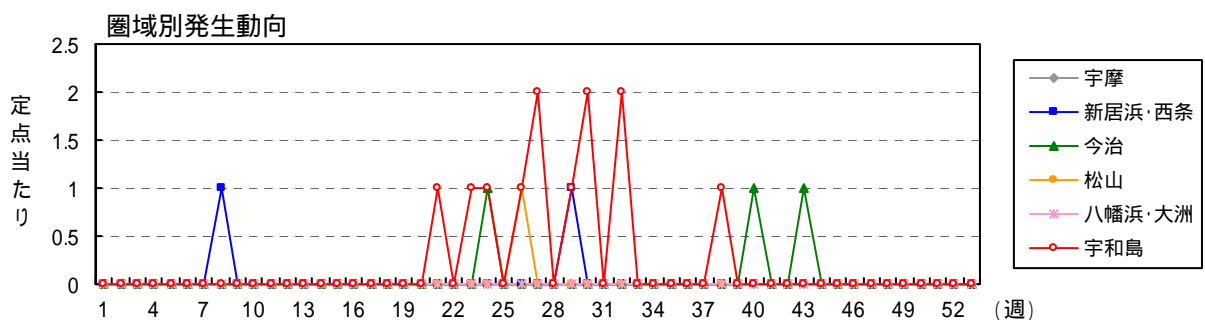
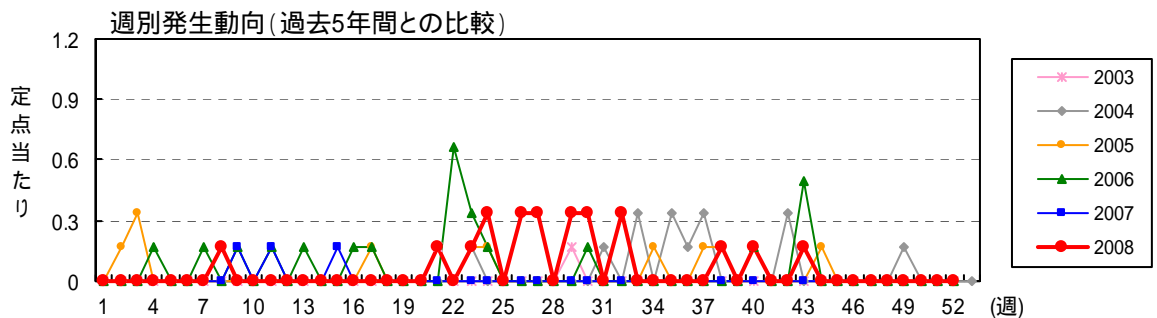
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)

2008年の患者報告数は7人(定点当たり1.17人/年)で、前年(患者報告数1人 定点当たり0.17人/年)に比べ大幅に増加し、1999年の調査開始以降最も報告数が多かった。地域別は今治地区4人、松山地区2人、宇和島地区1人であった。年齢別では1歳未満が2人、1~4歳、5~9歳、30歳代、50歳代、60歳代が各1人であった。病原体はインフルエンザ菌、表皮ブドウ球菌、黄色ブドウ球菌、肺炎レンサ球菌が各1人、不明3人であった。



無菌性髄膜炎

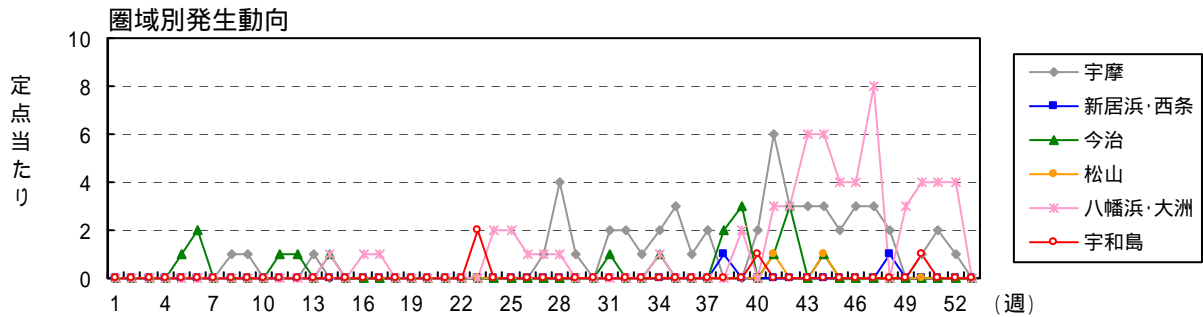
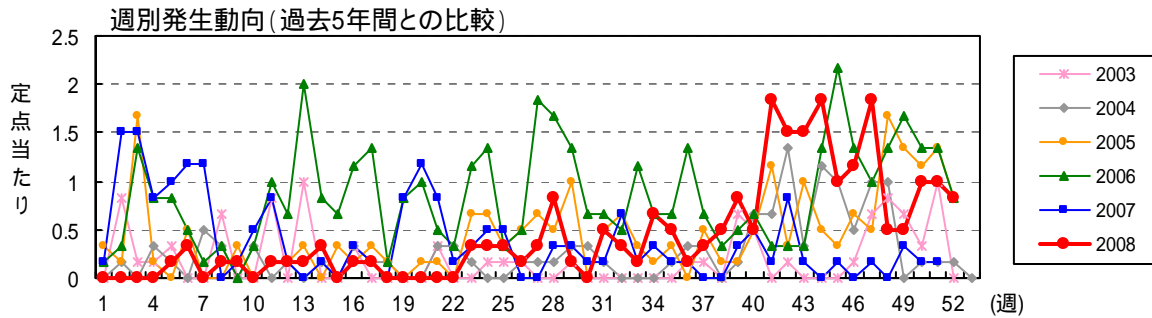
2008年の患者報告数は18人(定点当たり3.00人/年)で、前年(患者報告数3人 定点当たり0.50人)に比べ大幅に増加したが、ほぼ例年どおりの発生規模であった。地域別では宇和島地区12人、今治地区3人、西条地区2人、松山地区1人であった。年齢別では10~14歳が7人、5~9歳が6人、1~4歳が2人、20歳代、30歳代、70歳代以上が各1人であった。病原体は、流行性耳下腺炎ウイルス3人、風しんウイルス1人、不明14人であった。





### マイコプラズマ肺炎

2008年の患者報告数は141人(定点当たり23.50人/年)で、前年(患者報告数117人 定点当たり19.50人/年)に比べやや増加したが、ほぼ例年と同程度の発生であった。1~9月は県内全域で散發程度の発生が続いていたが、10月以降八幡浜地区で多発が続いた。地域別では八幡浜地区62人、四国中央地区53人が多く、今治地区18人、宇和島地区4人、西条地区及び松山地区は各2人であった。年齢別では1~4歳61人(43.3%)、5~9歳39人(27.7%)と幼児・学童で多かった。



### クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2008年の患者報告はなかった。県内では2004年7月に4人の患者報告があった以外は、1999年の報告開始以降、年間0~2人とごく少数例の報告で推移している。

